

汚された た翡翠



R-18
同人



前回までのあらすじ

「緋紋蝶のお関」、「白山坊のお麗」と名のある女侠客が立て続けに失踪。

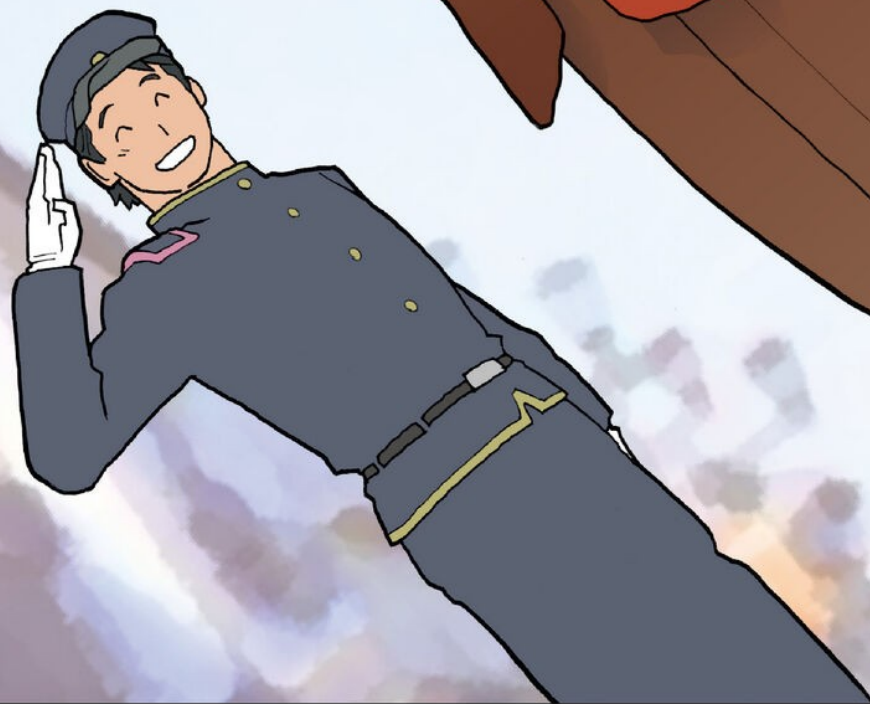
その知らせを耳にした「翡翠鳥」の通り名を持つ侠客お劉は、同じ稼業の誼みからか単身捜索に乗り出す。そして、と或る地域の田舎ヤ○ザー家に辿り着いた。最強の侠客の名に恥じめ剣術で、組の男衆を圧倒していく翡翠鳥。

ところが、敵の卑劣な策略により彼女も囚われの身となってしまう。しかも色恋沙汰が不得手という生真面目な性格が災いし、屋敷内で強いられる下劣な仕打ちがお劉にとってより苛烈なものとなっていく。

もはや三人の女侠客の命運もこれまでか……というところで、お劉の手下達が組を襲撃し無事救出される。

お劉は無事帰郷していた。
相も変わらずの渡世人稼業で、決して
陽のあたる処を歩く生活
ではなかったが……

件の組での虜囚の日々が嘘だったかの様に、
彼女の表情は晴れやかであった。





その日は、梅雨入の前で少々蒸し暑かった。
おそろしく陽が落ちる頃には天気がくずれる……。お劉は、いつもより早く日課である湯浴みに入った。



初夏の陽光が、お劉の糸纏わぬ肢体に庭木の影を映す。
温厚な性格とは裏腹に、アウトローな連中が跋扈する世界を渡り歩いて
きた彼女の体は、望まずとも隆々と逞しかった。



それに加え、妙齡の脂肉と女性ならではの気品も相まって、見事に「美」と「武」を兼備していた。



もし彼女の湯浴みが入目に付こうものなら、おそらく木屏の向こうは近所の男共でござった返した事だろう。

しかしながら、彼女の家は岩場で行き止まりとなる一番隅にあるため、家の前の通路はまず人が来ない。ゆえに安心して屋外での湯浴みに臨むお劉なのだが……………。

その日は何故か嫌な視線を感じていた。



そして……お劉が感じていた不安は、
その晩現実のものとなって襲いかかってきた。

「お前は!!?……」



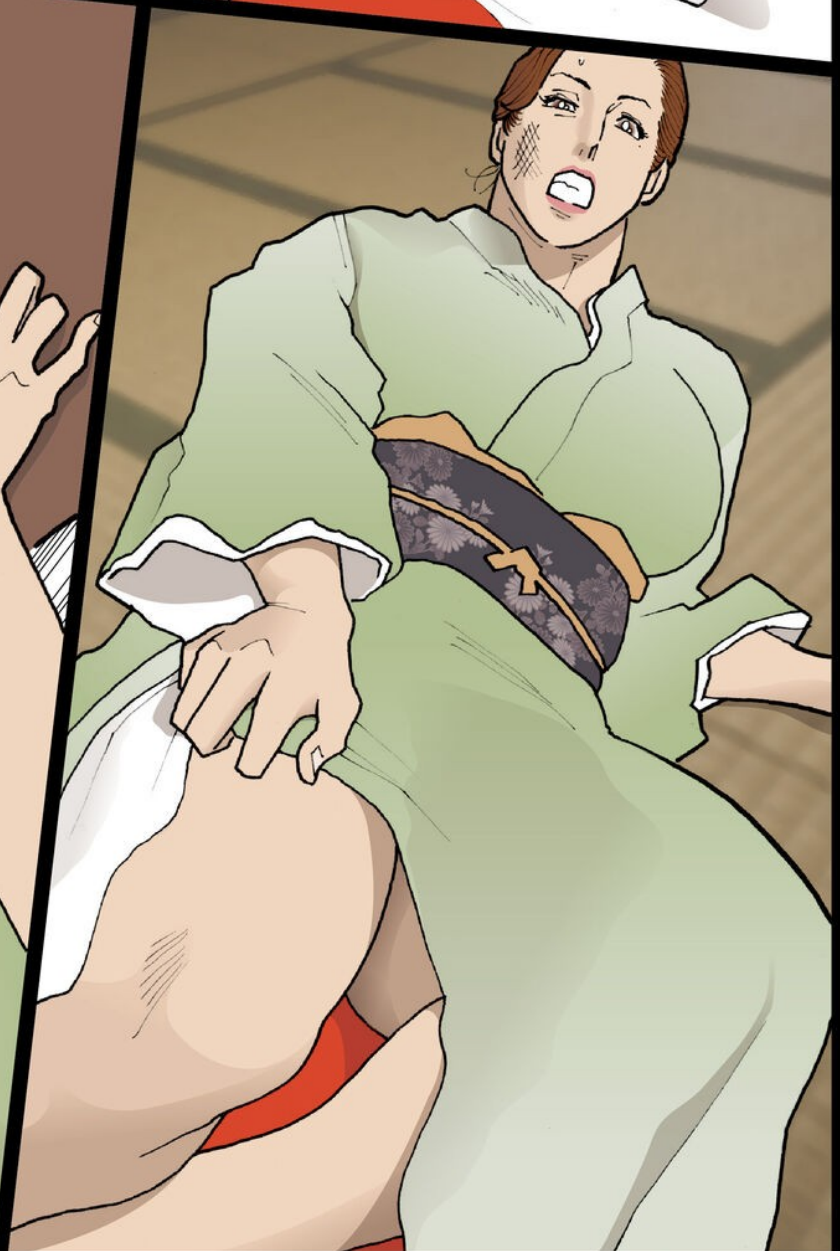
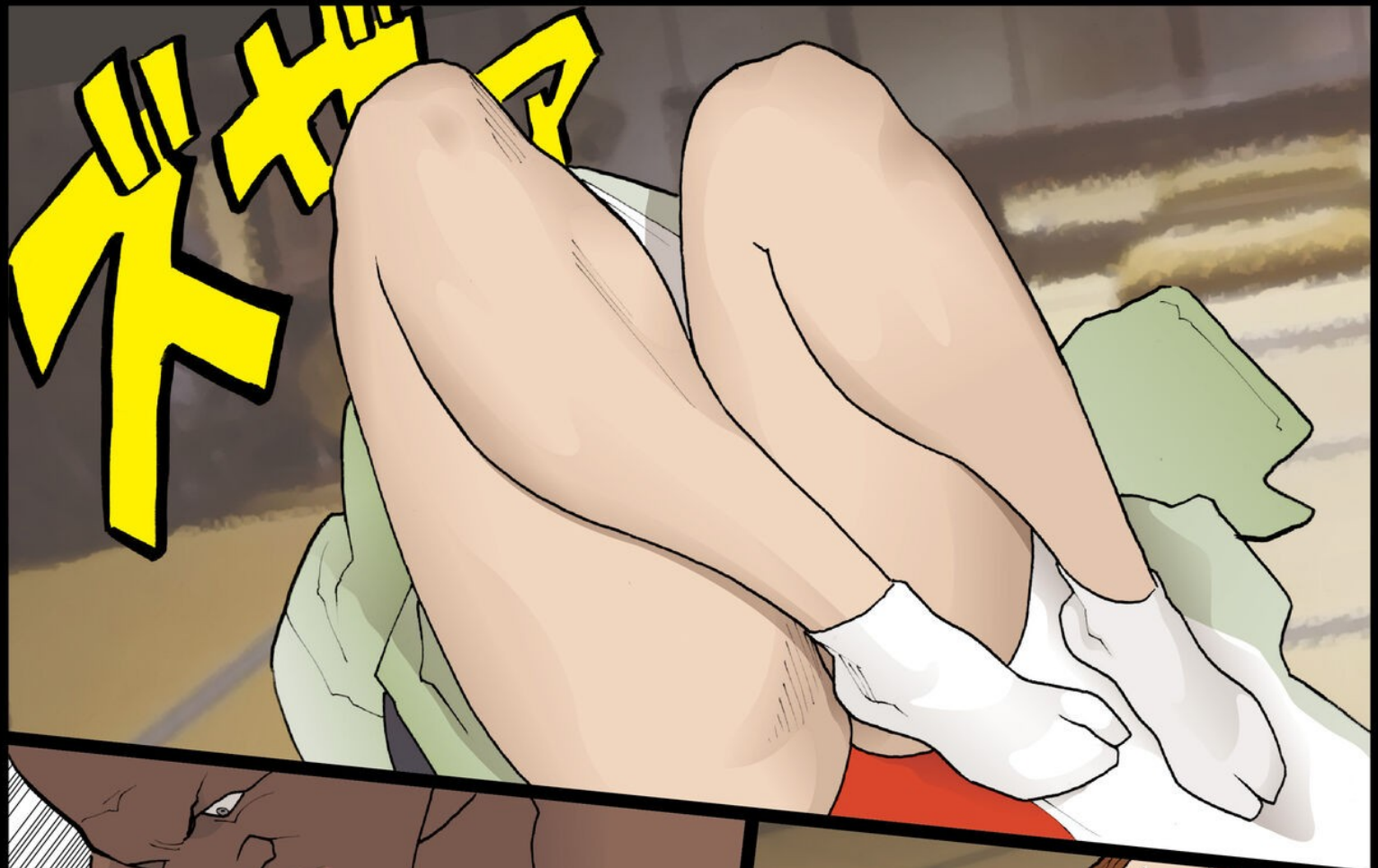
突如寢屋に飛び込んで来た巨大な怪物は、愛用のヒ首を探して一瞬背後を見せたお劉に掴みかかった。

「は、速い…」





（へへへ：相変ワラズ、イイ肉ノ感触ダゼ。）







お劉にとって懐かしくもあり苦い
思い出でもある黒い暴威が、よも
や我が邸宅まで侵入してくると
は、予想だにしていなかった。
藪木組の壊滅は承知していたが、
その残党の行方までは知る由もな
く、ましてや因縁の異人の男の急
襲に、お劉は困惑していた。
ともあれ此の場を何とか収束させ
ようと奮戦する彼女だが……
相変わらずの怪力に苦戦を強いら
れる。

「ぐううツ!!」

（迂闊だった……。ここ最近の視
線の正体はこの男だった。）

「ぐはあツ!!」

ズザァァ

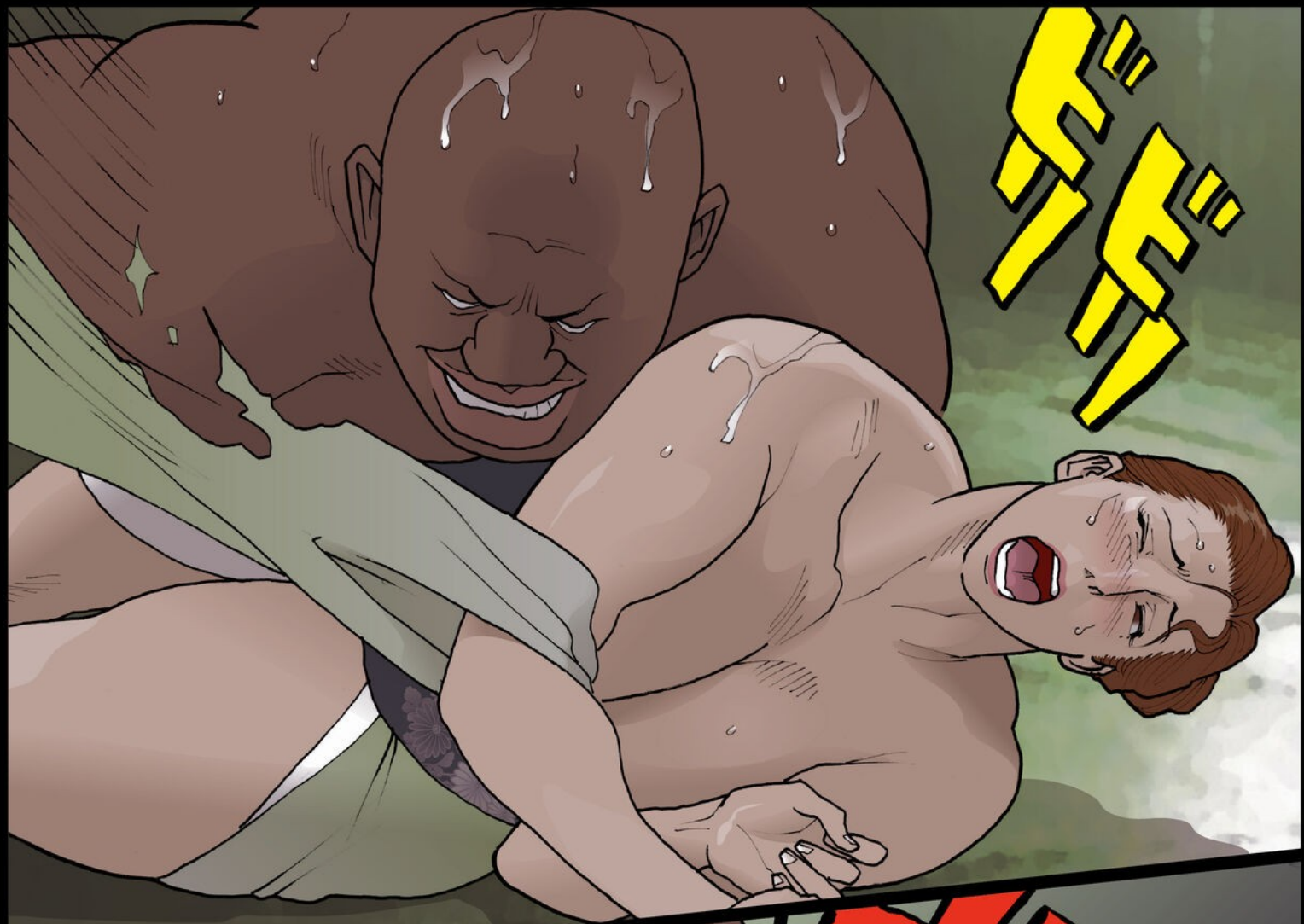


ギィ







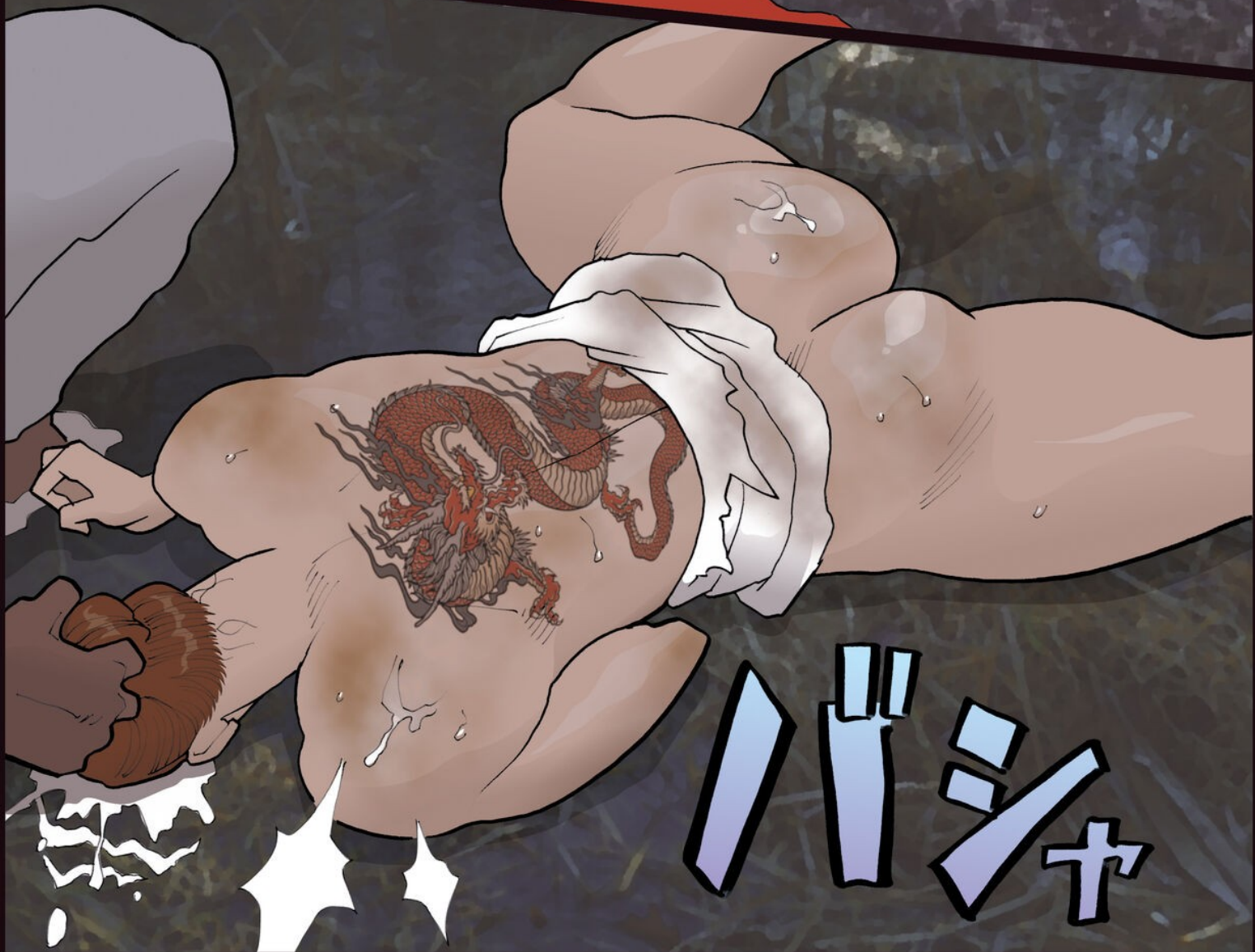








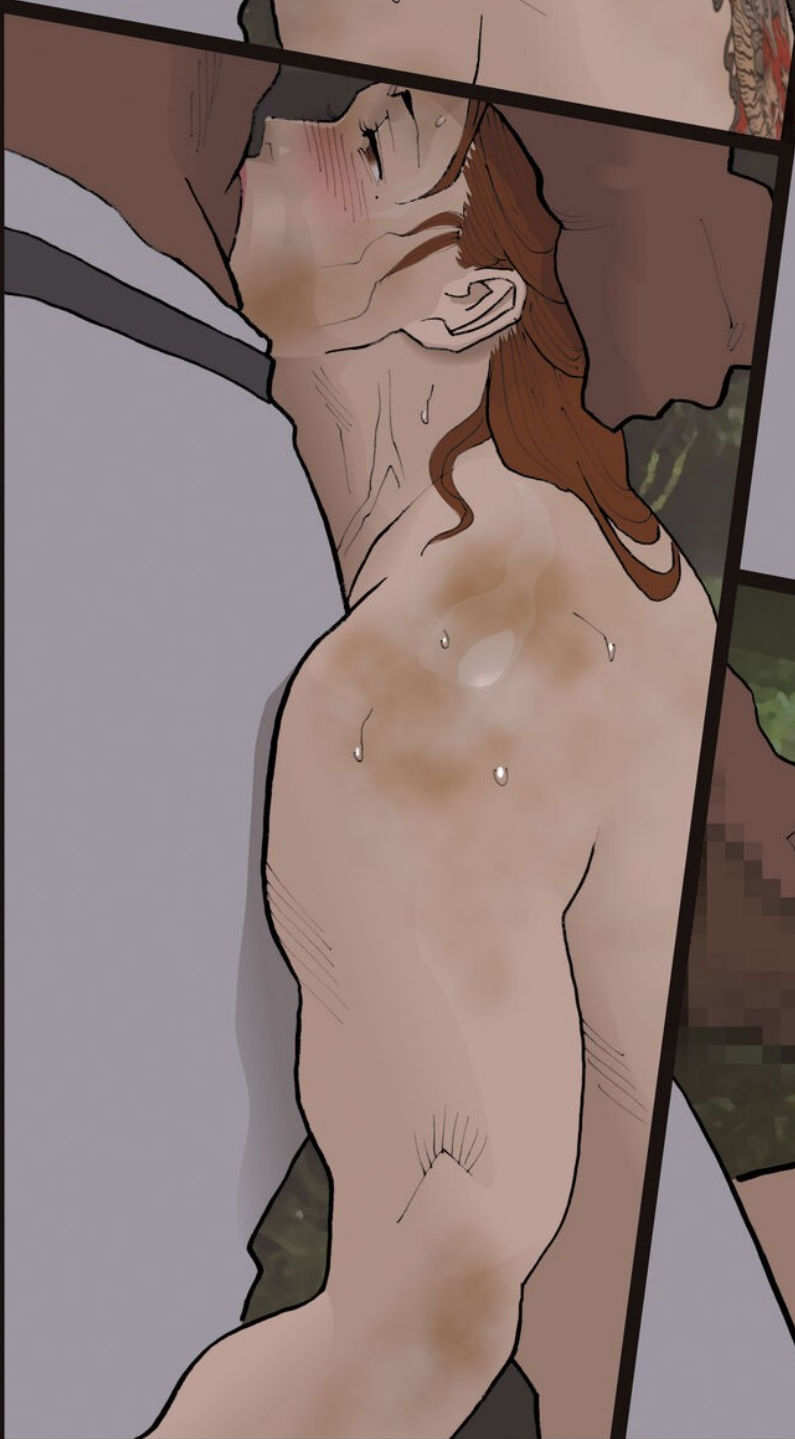




下手ナまねシヤガツ
タラ、息子ヲ肉片ニ
スルカラナ。

ガッ

☆





かつて藪木組で手合せた異人の大男。
身に付けた武技で一度は勝ちを拾ったお
劉であったが、再戦では哀願するまで叩
きのめされた…。

その時の恐怖をすっかり覚え
てしまっていた彼女の体は、
満足を抵抗も出来ないまま文
字通り蹂躪されていった。

ビョ
ビョ



男は込み上げる興奮を抑えきれず咆哮した。
おそらく今後出逢う事が無いであろう、獲物の持つ可憐さと髑り甲斐のある肉体に……。

そして女は慄いていた。
見上げた男の圧倒的な「雄」とは別に、己の中に芽生え始めているモノに……。

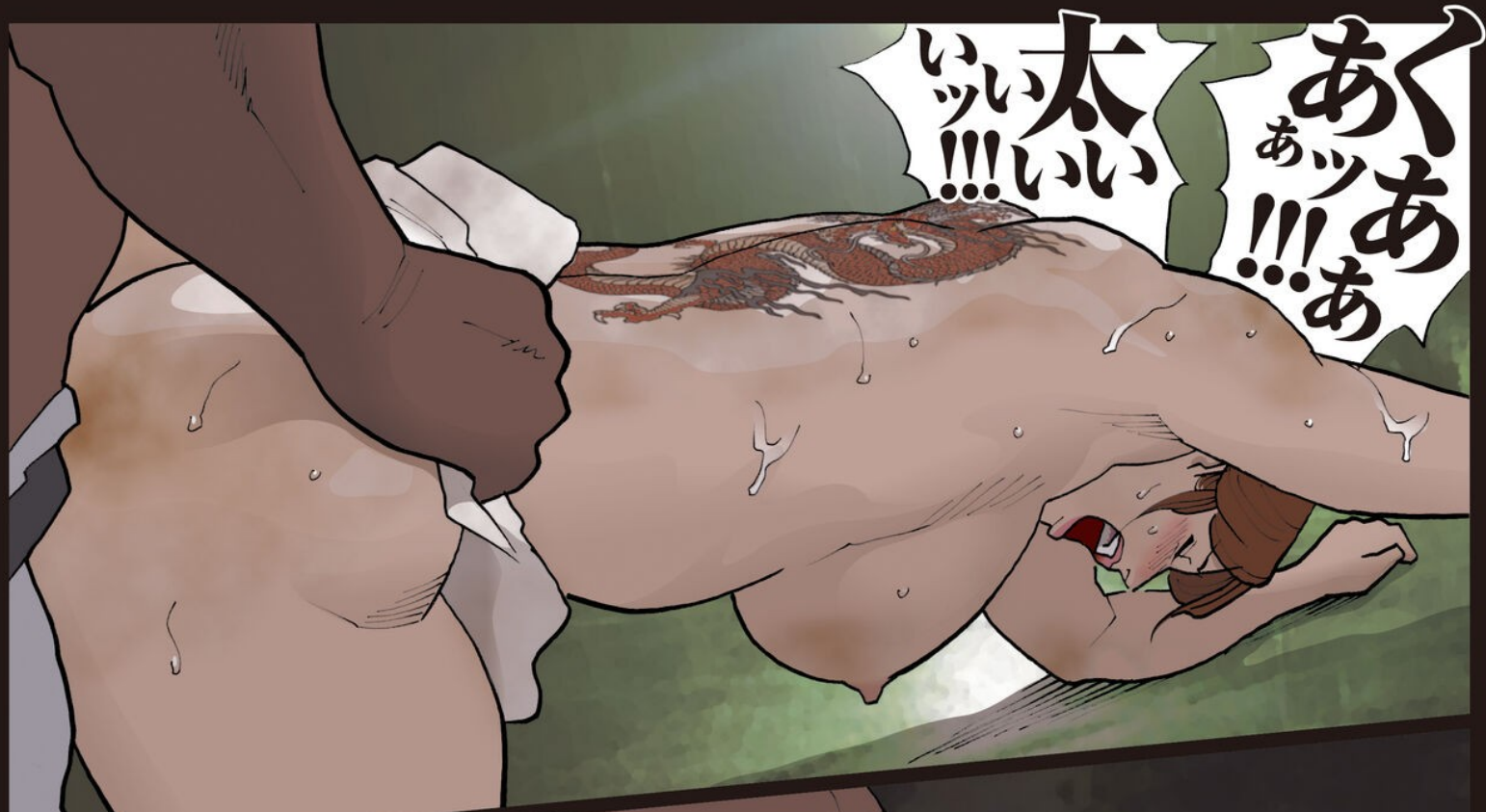




イイ表情ニナツタナ。
サスガニモウ抵抗ス
ルダケ無駄ダト痛感
シタミタイダナ。



安心シロ。
コノ豪雨ナラ、ドンナニ
泣キ喚イテモ寝テルがき
ニヤア聞コエネエヨ。






ホラ、才劉。
日本人ラシク屈服ノ
意ヲ示シテミロ。

真白き柔肌を雨と土に塗れ、わずかな布だけを纏つての土下座は、侠客としても有り得ない姿だった。

ただ救いなのは、吐き出す様に叫ぶ女の許しを請う声が豪雨でかき消された事だけであった。





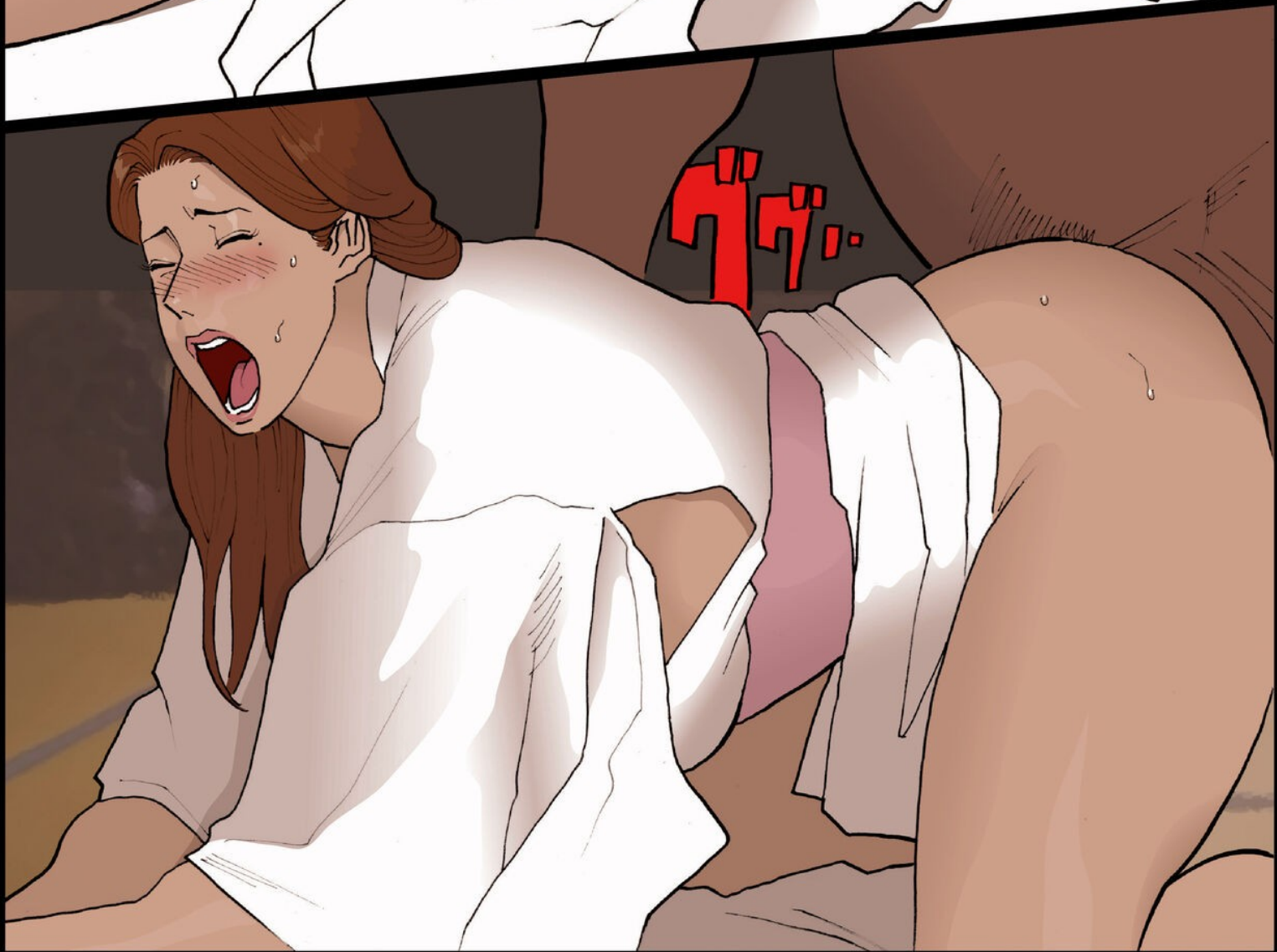
お劉は異人の男を、^ク離れ^クに招き入れた。
そして自らも体の汚れを落とし薄手の寝衣を着て、男
の待つ寝室に入っていた。
外は相変わらずの豪雨である。

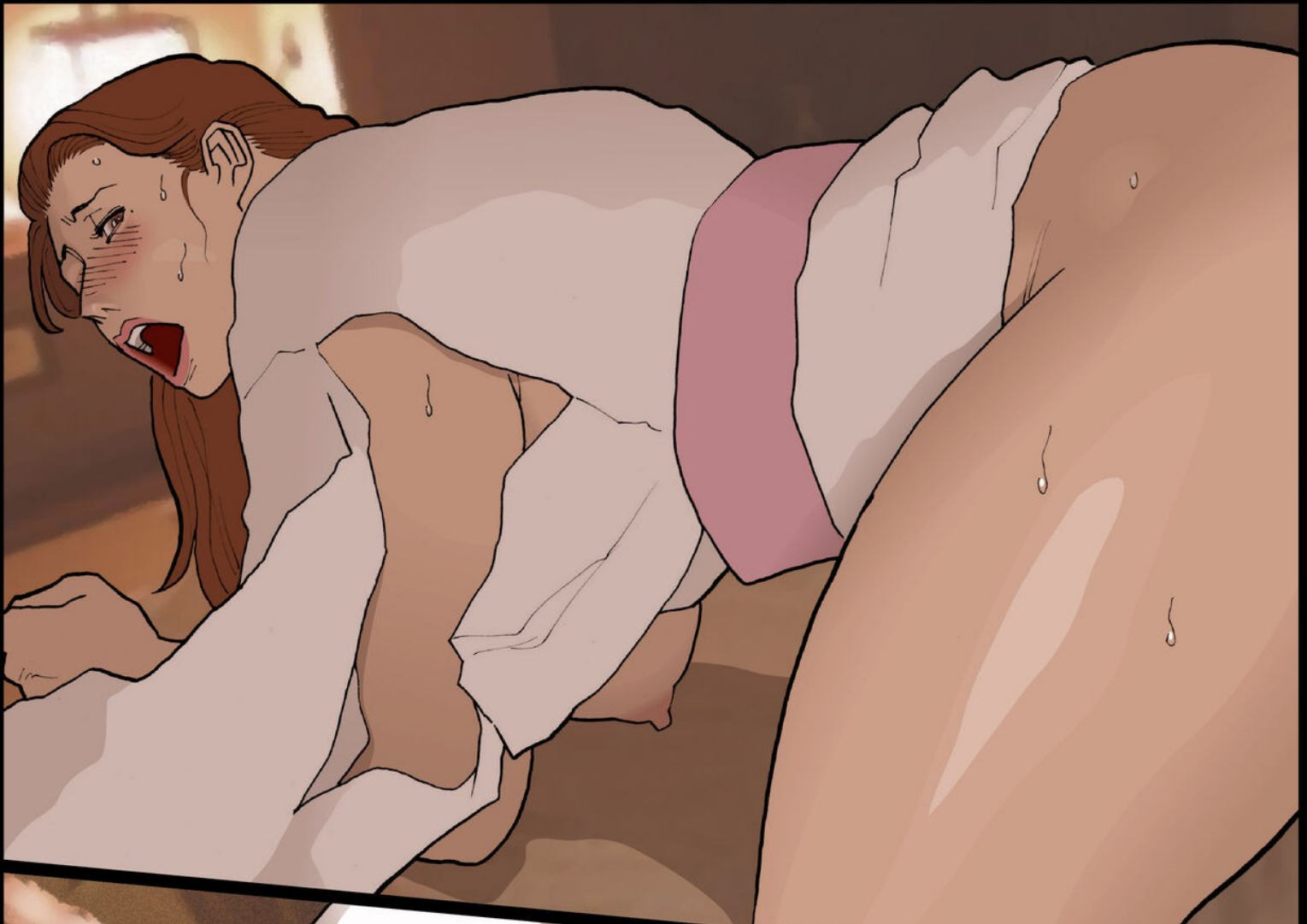
「オイオイ…」

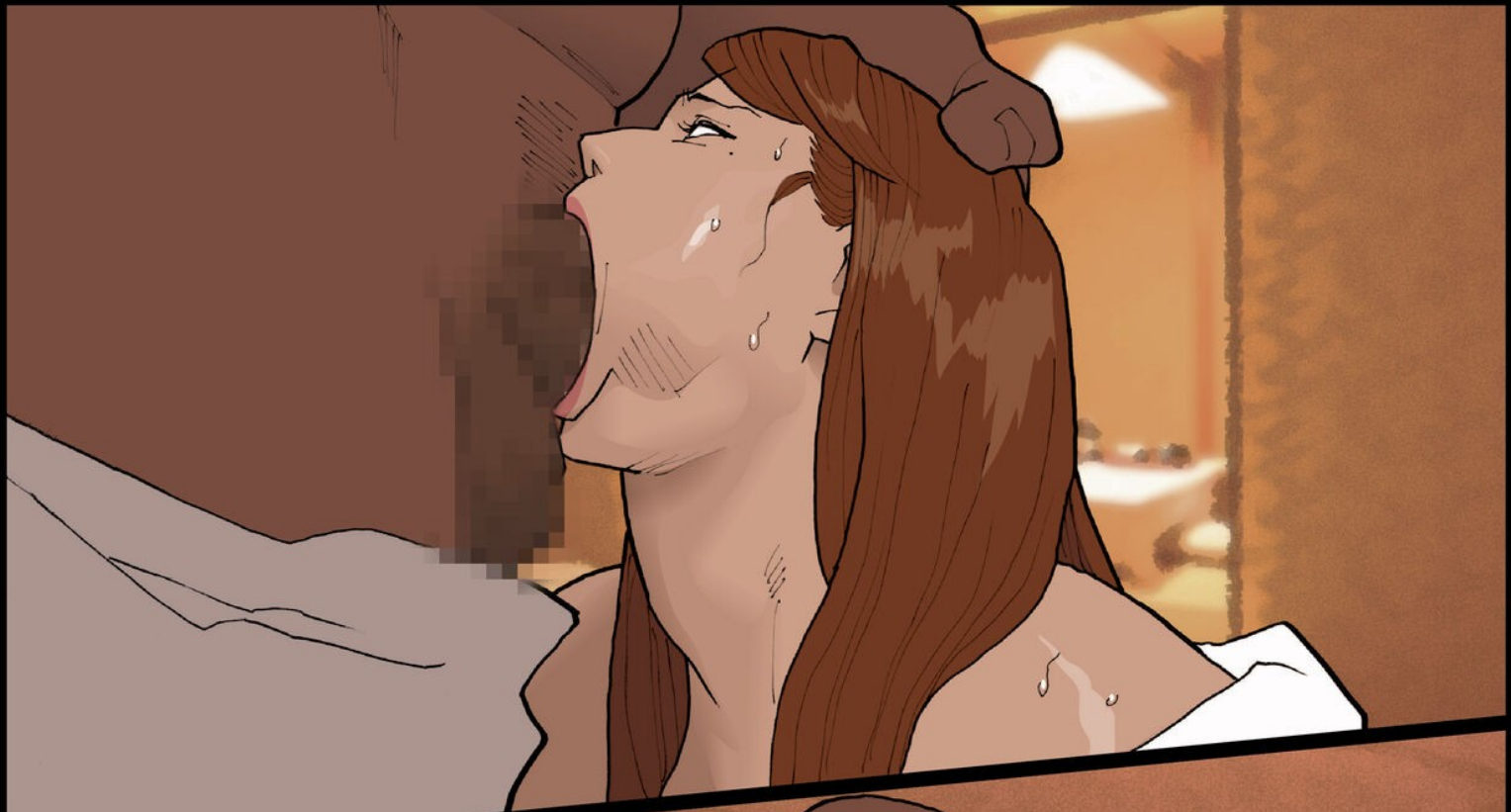
ココモチヤント拭イテコイヨ。

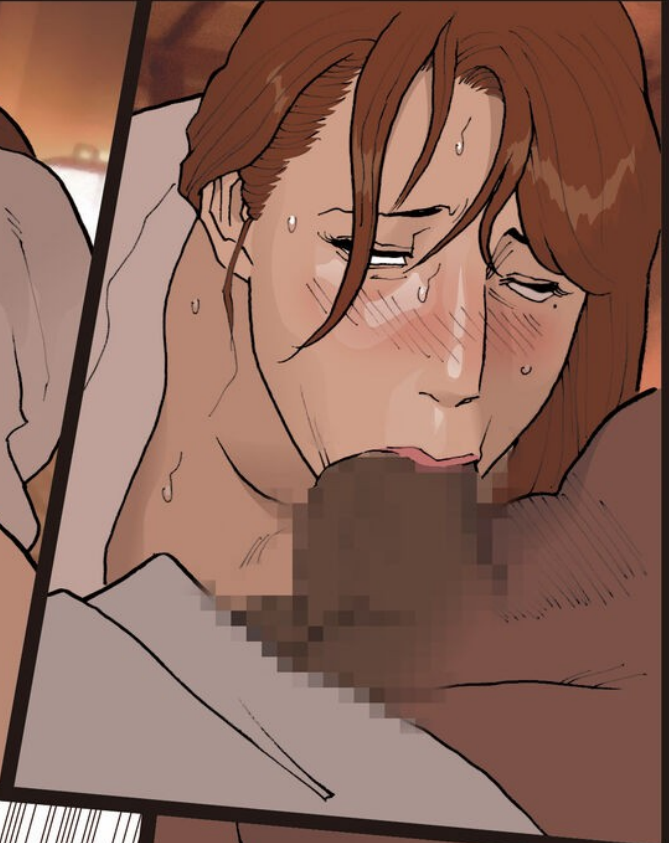
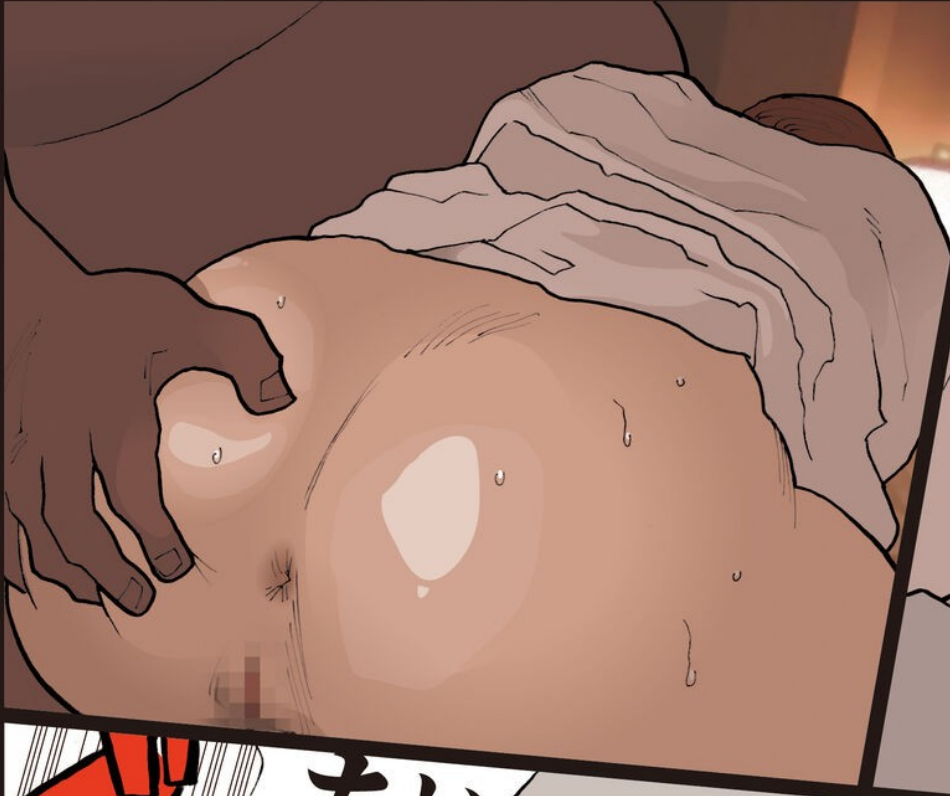
ソナナニ待チキレナカツタカイ？」

「ち…違います。そんなつもりじゃ…。」









いやあ
あああ
ッ!!!
あああ



降参スレバ
優シク相手シテ貰エル
トデモ思ツタカイ?




んあ ああッ
気持 ちいいいッ
!!!

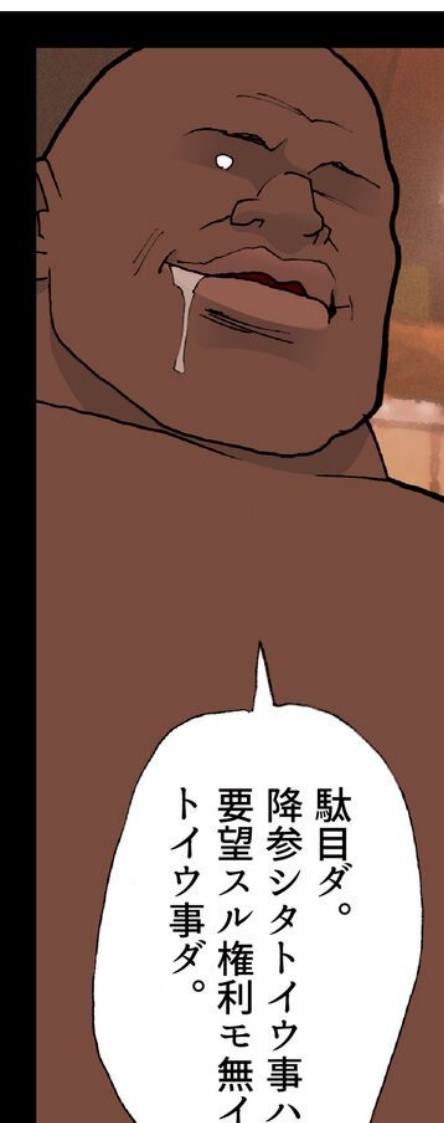


ド
ド





へあああ……す……
少し……休ませ……。



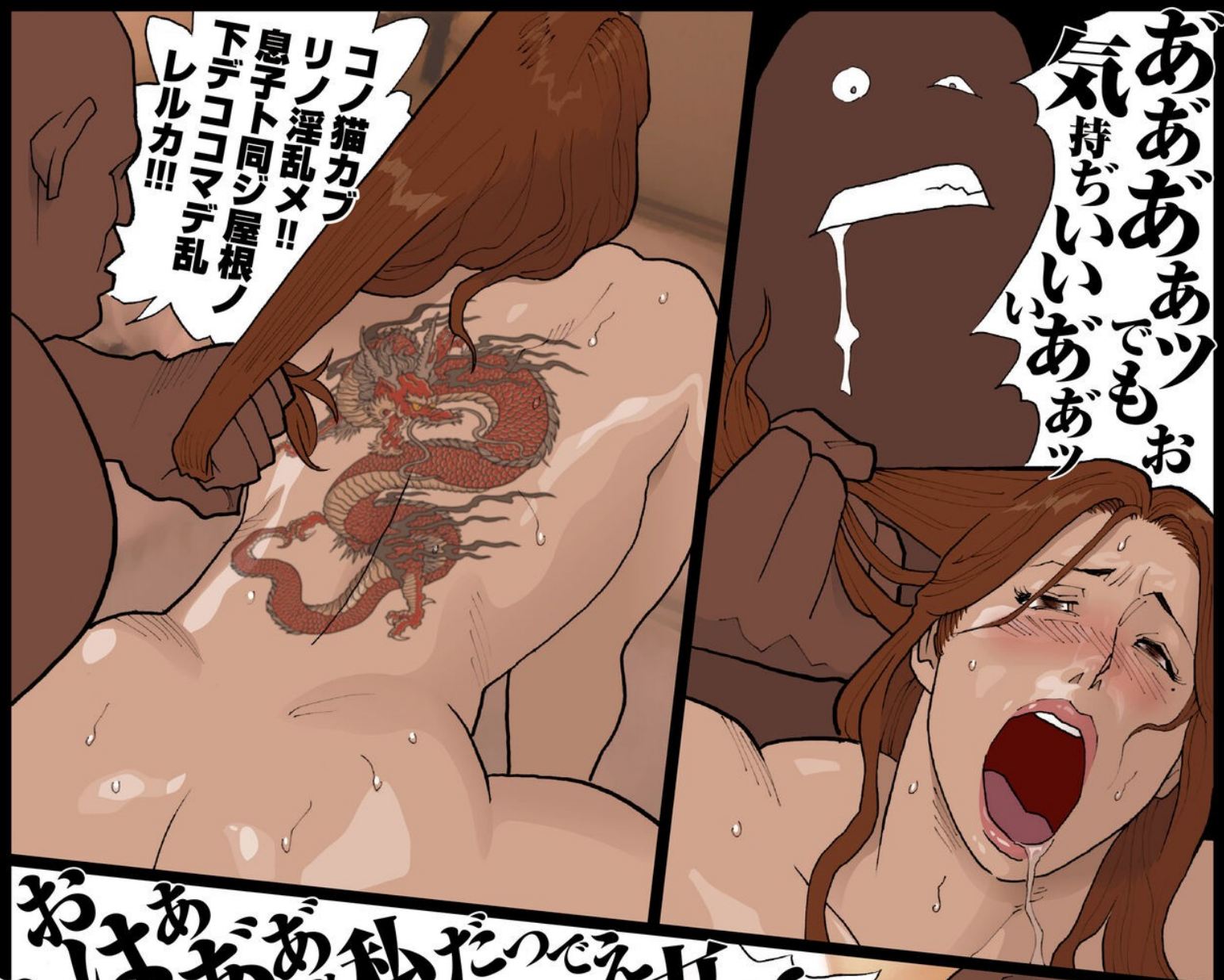
駄目ダ。
降参シタトイウ事ハ、
要望スル権利モ無イ
トイウ事ダ。



ゴゴゴ
ゴゴゴ

あああああツ
でもお
気持ぢいいいああツ

コノ猫カブ
リノ淫乱メ!!
息子ト同ジ屋根ノ
下デココマデ乱
レルカ!!!



ああああ私たのめん女に
おはあツなるぞきじい



ああああ
わよおおお

おごほおお
気持ちよ
過ぎでえ...
おがじぐ
なるううッ



カッ



マダマダ
寝カセネエヨ。
夜ハコレカラダゼ。



はひい...

か...
は...

その後も自ら敷いた寢床の上での
たうちまわり、嬌声・痙攣・失神と...
あられもない痴態を晒した翡翠鳥。
結果、無尽蔵の体力が災いして怨敵
を大いに悦ばすことになった。
獣の様な慟哭の合間に口をついて
出る言葉も、はじめは亡き夫と息子
への詫びだったが、次第に己のあさ
ましさと相手への服従の誓いにな
り、果ては息子より異国の男の男根
を優先するよう聞くに堪えない
物言いに変わっていった。
其の目、異国の魔人による強襲劇
は、最強の侠客と呼ばれた女の本性
を引きずり出し、たった一晩で淫臭
漂う肉塊に変えてしまった.....。



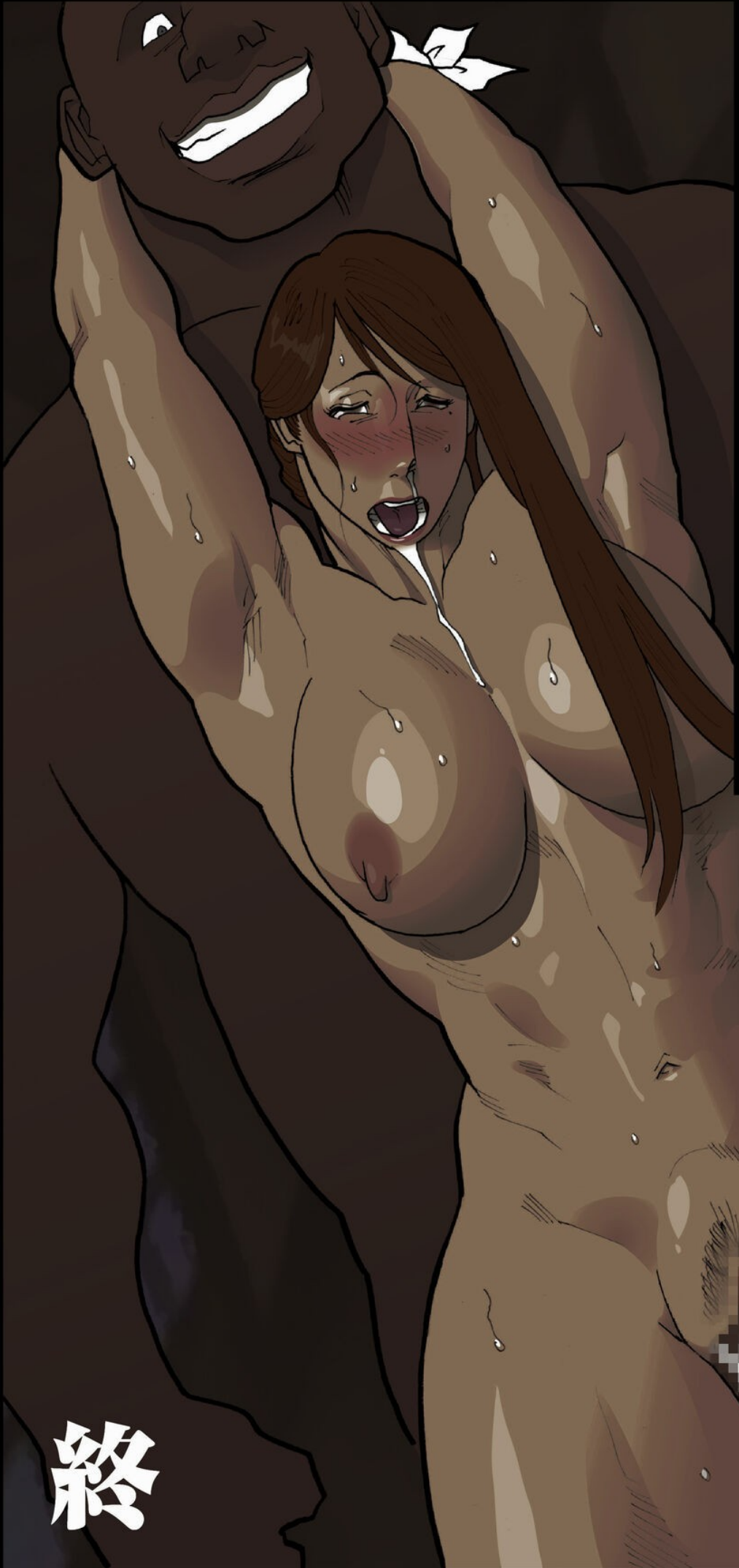
カッパカッパ...



雨がうるせー時に
暗がりですっ立ってたら、
ビックリするだろ。



…んだよ、
母さんか…。



終